－所蔵作品紹介－

丹野　則雄　TANNO Norio

蘖―ひこばえ

ひこばえ

作品データはこちら

丹野則雄は、旭川市に生まれ、北海道デザイン研究所（現北海道造形デザイン専門学校）を卒業後、家具会社に勤め、1980年にノア・ウッドクラフト旭川（現在のクラフト&デザイン　タンノ）を創立して独立した。白木の魅力にひかれ、木の性質と特色をよく生かした作品で知られる。各地のクラフト展に出品して受賞を重ねており、「はこで考える―あそびの木箱1992-93」展では、ここに紹介した作品で大賞を受賞した。

この作品は、廃材から新芽が伸びるイメージが形になったものである。新芽の部分が鍵になっていて、それをつまんで引き上げ、ふたの部分をスライドするように押すと箱が開く。規格の製品をつくる材料としては使い物にならない廃材を小物入れに応用したアイデアは卓抜であるとともに、作者の素材へ寄せる愛着が伝わってくる。「蘖」とは切った草木の根から出てきた芽のことである。

「北海道立旭川美術館コレクション選集1982-1997」（1998年３月発行）より